

動物用医薬品

2023 年 11 月改訂

貯法	室温保存
----	------

承認指令 書番号	112.5 mg : 2 動薬第 341 号
	250 mg : 2 動薬第 342 号
	500 mg : 2 動薬第 343 号
	1000 mg : 2 動薬第 344 号
販売開始	2015 年 7 月



ブラベクト®錠 112.5 mg
ブラベクト®錠 250 mg
ブラベクト®錠 500 mg
ブラベクト®錠 1000 mg

ブラベクト錠の主剤であるフルララネルは、合成イソキサゾリン系化合物である。

フルララネルはγ-アミノ酪酸（GABA）作動性塩素イオンチャネルのアンタゴニストに分類され、節足動物の GABA 作動性塩素イオンチャネルに作用し、塩素イオンの神経細胞流入を阻害する。その結果、抑制が効かなくなり、過度の興奮を起こすことでノミ及びマダニを死亡させる。

【成分及び分量】

販売名	有効成分（1 錠中）
ブラベクト錠 112.5 mg	フルララネル 112.5 mg
ブラベクト錠 250 mg	フルララネル 250 mg
ブラベクト錠 500 mg	フルララネル 500 mg
ブラベクト錠 1000 mg	フルララネル 1000 mg

【効能又は効果】

犬：イヌニキビダニの駆除による全身性毛包虫症の改善、イヌセンコウヒゼンダニ（疥癬虫）、ノミ及びマダニの駆除

【用法及び用量】

体重 1 kg あたりフルララネル 25 mg を基準量とし、体重別には下記のとおり犬に本剤を 1 錠経口投与（投与前後に少量の餌を与えること）又は混餌投与する。

なお、体重 40kg を超える犬には、体重 1kg あたりフルララネル 25mg を基準量とし、錠剤を組み合わせ投与すること。

体重	投与量（錠数）			
	ブラベクト錠 112.5 mg	ブラベクト錠 250 mg	ブラベクト錠 500 mg	ブラベクト錠 1000 mg
2 kg 以上 4.5 kg まで	1			
4.5 kg を超え 10 kg まで		1		
10 kg を超え 20 kg まで			1	
20 kg を超え 40 kg まで				1

【使用上の注意】**（基本的事項）****1. 守らなければならないこと****（一般的注意）**

- ・ 本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・ 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- ・ 本剤は、獣医師の指導の下で使用すること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・ 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・ 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・ 小児の手の届かないところに保管すること。
- ・ 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・ 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・ 誤って本剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・ 本剤の投与後は石けんで手をよく洗うこと。また、本剤は皮膚から吸収されるので、皮膚に付着した場合は直ちに水洗いすること。

(犬に関する注意)

- ・ 本剤は1回投与すると通常約3か月間新規のノミ及びマダニを駆除することができる。
- ・ 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- ・ 複数飼育の場合は、再寄生を最小限にするため、全頭投与することが望ましい(毛包虫症の場合を除く)。
- ・ 本剤投与後6時間以内に嘔吐して本剤を完全又は一部を排出した場合は、本剤を再投与すること。

(専門的事項)

①対象動物の使用制限

- ・ 本剤は8週齢未満の子犬又は体重2 kg未満の犬には投与しないこと。
- ・ フルラネル又は添加剤にアレルギーのある犬には投与しないこと。本剤には添加剤としてフレーバー(豚肝臓及び醸造酵母由来)、トウモロコシデンプン、パモ酸二ナトリウム水和物及びダイズ油などを含む。

②重要な基本的注意

- ・ 本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。
- ・ 本剤をノミ及びマダニ駆除の目的に反復投与する場合は12週間に1回を超えないようにすること。ただし、本剤の投与後約3か月以内に体重がおおよそ2倍となるような成長期の犬に反復投与する場合には、寄生リスクを考慮して8週間に1回を超えないようにすること。
- ・ 毛包虫症はイヌニキビダニによる皮膚疾患であるが、多因子性疾患であるため、基礎疾患についても適切に治療することが望ましい。また、皮膚の二次的な細菌感染に注意し、必要に応じ適切な治療を実施すること。
- ・ 毛包虫症の改善及び疥癬虫の駆除には本剤を単回投与する。再投与の必要性和頻度は、獣医師の指示に従うこと。
- ・ 繁殖に用いる犬、妊娠中あるいは授乳中の犬に対しては、国内で実施した臨床試験の症例に含まれておらず安全性が確認されていないため、該当する犬への投与に際しては、本剤の有効性及び安全性を十分に勘案した上で、投与の可否を慎重に判断すること。
- ・ けいれんや嗜眠が副作用として報告されているので、てんかんの既往歴のある犬への投与に際しては、本剤の有効性及び安全性を十分に勘案した上で、投与の可否を慎重に判断すること。

③相互作用

- ・ 本剤は血漿蛋白結合率が高い薬剤であり、蛋白結合率の高い他の薬剤と併用すると血漿中の蛋白との結合において競合し、本剤又は競合する薬剤の血漿中遊離型濃度が変化し、それぞれの薬剤の有効性又は安全性に影響するおそれがあるので、併用する際は十分に注意すること。なお、蛋白結合率の高い薬剤としては、非ステロイド系抗炎症剤、ループ利尿剤や炭酸脱水素酵素阻害剤、一部のACE阻害剤及び抗凝固剤等がある。

④副作用

- ・ 本剤の投与により、ときに消化器症状(下痢、嘔吐、食欲不振又は流涎)がみられることがある。また、非常にまれにけいれんや嗜眠がみられることがある。
- ・ 本剤投与により、一部の動物でAST、ALT等の増加が認められることがある。

⑤その他の注意

- ・ 本剤は、犬に寄生したノミ及びマダニの駆除等を目的とする動物用医薬品であり、これらの寄生虫が媒介する疾病の伝播を阻止できるかについての検討は行っていない。

【製品情報お問い合わせ先】

MSD アニマルヘルス株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北一丁目13番12号

TEL : 03-6272-1099 FAX:03-6238-9080



MSD

Animal Health

製造販売元（輸入）

MSDアニマルヘルス株式会社

東京都千代田区九段北一丁目13番12号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。